

# 「今を見るか？先を見るか？」

～今に先はない～

エレ31：15～22

## ■ 夢を見る人に…

私たちが成長する段階でさまざまな人や事柄から影響を受けて育ちます。その中には正しいことや間違っていることも含まれています。しかし私たちが中で正しい事と思っていることも実はよくよく考えてみると間違っていることもあります。そのように元が正しくなければ、たとえその通りにしていたとしても間違っているという事になります。ある脳科学者の実験ですが、寝ている時に夢を見てると脳波を計測と分析をしていました。そして夢を見ていた状態が分かかってきましたので、夢を見ていた時に合わせてある人を起こしていたそうです。その人は夢が見れない状態が続きました。その人がどうなったのかというと、精神的に不安定な人になったそうです。反対に夢を見ていない時に起こしていた人は問題がなかったそうです。夢というものは全て覚えているものではありませんが、夢が見れなくなるということは、わたしたちにとって大きな影響を持っていることなのです。聖書はいつも夢をもって生きるように伝えています。では夢を現実していくために、私たちはどのようにしなければいけないのでしょうか。それにはしっかりとしたプロセスが大事なのです。野球選手のイチローは小学校6年生の頃にプロ野球選手になり、周りにいる人を喜ばせたいという夢と共にどのようにするべきなのかを文集に記しています。友達と遊ぶ時間は週に5～6時間などと具体的に。このように将来を夢見て、今の行動とリンクさせていました。このように私たちが今の行動だけに注目するのではなく、目的にそって今の行動をしていくことが大切なのです。

## ■ 今を見るか？先を見るか？

今日のタイトルになっておりますが、私たちは「今を見るか？先を見」ているのでしょうか。(エレミヤ31：15～22)今日のテキスト箇所を見てみますと、この当時イスラエルはバビロン捕囚前でした。このままだと他国によって滅ぼされてしまうという危機感の中でエレミヤが預言をしていました。そんなエレミヤの言葉にも耳を傾けないイスラエルの民がいたのでした。反対にエレミヤを偽預言者だと決め付けて迫害するよう有様でした。彼らはアブラハム、ヨセフ、モーセの時代に起こった歴史を知っているにも関わらず、彼らはそれを忘れてしまったかのような行動を取っていったのです。イスラエルの民は目の前の状況だけを見て行動するようになってしまいました。

## ■ 私たちも今を見るか先を見るか？

私たちが神様にしますと誓ったことをすぐに反故にしてしまうことがないでしょうか。そして分かっているも行わない人になっていませんか。私たちが苦しい状況の中にあっても、神様はそこから抜け出させて下さると信じて決断していききたいのです。大切なのは決断です。この決断については神様は人に委ねている部分であり、神様が人によって決断することができません。この決断がなくては自分で自分の心を変えることができないので、将来に向かって進むこともできず、今に生きるようになってしまいます。反対に将来をみてそれを実現させていくためには自らがどのようなプロセスを歩むのかを知っていないといけません。私たちはそのプロセスを大切にすることは以前のメッセージで語られていました。この大切なことができないようにするのが私たちの内側にある古い生き方なのです。それは私たちに大きな影響を与えていて、ここぞという時に間違った決断をするようになってしまいます。感情的になってしまった時に私たちが元に戻る決断ができるのか大切なことです。聖書は失敗をするなど伝えているのではなく、失敗した後、どのように戻るのかを伝えているのです。アダムとエバが神様の前で責任転嫁を行った時のように、失敗した後の行動から私たちが学んできたと思います。この地上に教会があるのは失敗してしまつた時に正しい方向へ決断ができるように一緒に進むためなのです。

## ■ 私たちの歩みは

私たちは将来を見て行動していかないといけないのです。今(現在)は時間の経過と共に過去になっていっているのです。今を見て生きている人は先(将来)を失う決断をしてしまうのです。しかし先を見ている人は目の前で起こっている問題乗り越えていくことができるのです。私たちは多くの人と接して行く時に相手の先を見ていかないと夢を壊すようなことを与える人になっていってしまいます。私たちの願いは良い影響を及

ぼす人になっていきたいのです。そうなるためにはまずは私たちが決断しなければなりません。私たちが調子の良いときに良い決断ができるのは当たり前です。しかし私たちの調子が悪い(失敗した時、感情的になった時…)時に、悪い決断をするのではなく、良い決断ができるようになっていきたいと思います。

## ■ キリストの歩みの後を

イエスキリストが十字架への道を通られたのは私たちが変われると信じているからです。私たちの先を見ているからこそ、私たちのために自分の身を犠牲にしたのです。私たち自身が自らで決断をしていかなければいけないのです。言ってはならないことを言わない決断、怒ってならない時に怒らない決断、喜ばない時に喜ぶ決断、感謝できない時に感謝を見出すための決断をしなければいけないのです。私たちは結果ばかりに目がいってしまっていますが、重要なものはその決断(種まき)なのです。良い種をまくことができれば、結果として良い実を実らすことができます。サウル王とダビデ王が比べられるのはその違いです。大切な時にその決断ができたかできなかったのかでした。それゆえサウル王は退けられ、ダビデ王は神と人に愛されたものと呼ばれるようになりイスラエル王として国を治めることができました。私たちは日々の生活の中で小さな決断を誤らまわってはいけません。そして正しい決断(ベスト)を積み重ねていく必要があるのです。それは私たちが通ってベストな道を学んでいく人たちがいるからなのです。正しいことに従っていくのは私たちなのです。12弟子になったペテロたちは元は漁師でした。漁師こそ、今に生きている職業でした。イエス様と過ごすなかで先を見ることを伝え続けていきました。それが人間をとる漁師にしてあげようと言われた言葉から始まるのです。その夢を与えるところから始まりました。

## ■ ①見聞きしたことを認める！

私たちのすることが決断することです。自分の弱さに生きないという決断です。もう負けないという決断です。これは「自分ではできる。自分できる…」と自己暗示をかけていくものではありません。ただ、立ち上がろうとすると、イエス様が共にくびきをおって下さるので私たちは今の問題に対して先を見進んでいくことができるということです。(ローマ8：18)私たちは先を見て生きていくための条件として今に生きないということになるのです。現状の中で、振り回されず、揺り動かされないということなのです。やっではないいけないことをやめられないでは将来につながっていません。ここで決断が必要になってくるのです。神様は私たちが苦しんでいる姿、悩んでいる姿が見たくないので原因となっているものをとってほしいと伝えているのです。ここで私たちが乗りえないと私たちが通って実を結ばなくなってしまうのです。滅んでしまう人がいるのです。ネルソンマンデラ氏が30年間投獄されていた時、自分の娘が事故に見せかけられて殺されたとしても彼は揺るぎませんでした。そこで自分の信念である人種解放運動を止めませんでした。現状にのみならず、揺り動かされることなく、将来を見続け歩んでいました。彼が将来を見ずに今を生きてしまうたくさんの人たちの苦しみが続いていた可能性もあるのです。ですから私たちは見聞きしたことを実行していかなくてはなりません。自分の弱さを認めて戦っていかなくてはなりません。

## ■ ②覚悟を！

将来を救ってくださる方を見ていきましょう。私たちは覚悟を決める時がきているのです。もう今を見ない、過去をみない、つぶやかずに行うということです。私たちは右往左往しないで進みましょう。この「救う」という言葉の意味は「栄える、繁栄する。癒される。守られる。」ということです。このようにたくさんの恵みが入っている言葉です。

## ■ ③標柱を立てよ！

(エレ31：21～22) 私たちがどのような道を通って現在まで導かれているのでしょうか。それを忘れてはいけません。私たちの教会に来る前までの姿を思い出してください。イエス様と出会う前の人生はどのような道だったのでしょうか。私たちが歩んでいるこの道は戦いがあっても確実によくなっていることを実感するのであれば、これからも将来を見続け、まっすぐに歩いていきましょう。

(要約者:平澤 一浩)